

もりのくま通信第326号

令和7年11月20日号

【326号になりました：最近の流行情報】

現在、栃木県内でインフルエンザが流行しております。お近くの保育園・幼稚園や小・中学校や運動クラブ内の流行情報にお気をつけください。引き続き新型コロナや胃腸炎、アデノウイルス感染症も認められます。流行情報の把握にはNHKのサイトが便利だと思います (<https://www3.nhk.or.jp/news/special/medical/>)。

【インフルエンザの検査について】

インフルエンザの検査（迅速診）は、最近の研究では、24時間以降が推奨されています。
あまり早い時間帯ですと、陽性にならないことが少なくありません。また、新型コロナも発熱直後より時間が経過してからの方が検査陽性率が高いといわれています。

Table 2 Timing of examination and the sensitivities/specificities of the antigen test

A) All patients (n = 313)

Time after the onset of symptoms to the PCR testing	Antigen testing			
	Sensitivity	p-value*	Specificity	p-value*
<12 h	38.9 (17.3-61.3)		100 (91.4-100)	
12-24 h	49.5 (35.6-63.7)		100 (92.9-100)	
24-48 h	65.2 (47.8-78.6)	0.03	100 (93.2-100)	1.00
>48 h	69.6 (47.1-86.8)		100 (91.4-100)	
Overall	54.3 (45.3-63.1)		100 (95.0-100)	

この研究では発熱12時間以内が陽性率38.9%、12～24時間が49.5%、24時間～48時間が65.2%となっており、発熱後24時間以上経過した検査を勧めています

37.8℃以上の発熱および咳または咽頭痛を認める場合をInfluenza-like illness（以下ILI）とし、加えて、インフルエンザ様症状の発症時から受診までの時間を測定した。インフルエンザ様症状の発症時は、37℃以上の体温上昇、寒気・体熱感、咳、喀痰、倦怠感、咽頭痛、筋肉痛・関節痛、頭痛、鼻汁・鼻閉のいずれかの出現時と定義した。

明石 祐作他：発症から検査までの時間がインフルエンザ迅速抗原検査に与える影響
感染症学会誌 2021年95巻1号 p.9-16

インフルエンザ検査が陰性でも、周囲の流行状況や患者さんの症状をよく検討してインフルエンザのお薬を出す場合があります。（迅速診は20回に1回ぐらい偽陰性（間違って陰性と出てしまうこと）があるためです。また、小児期はインフルエンザ脳症・脳炎の発症率が大人に比べて高く、まれながら後遺症が懸念される場合もあります。一度インフルエンザを発症してしまうと脳炎・脳症のリスクを減らすことは困難といわれています。インフルエンザワクチンを検討戴くことをお勧めします。

【年末年始の診療について】 年末年始は下記のように診療致します。

	12月28日	29日	30日	31日	1月1日	2日	3日	4日	5日
午前	日曜	○	○	休診	休診	休診	休診	日曜	○
午後	日曜	○	○	休診	休診	休診	休診	日曜	○

*12月30日は診療12時30分まで受付。12時30分から13時予防接種外来。